

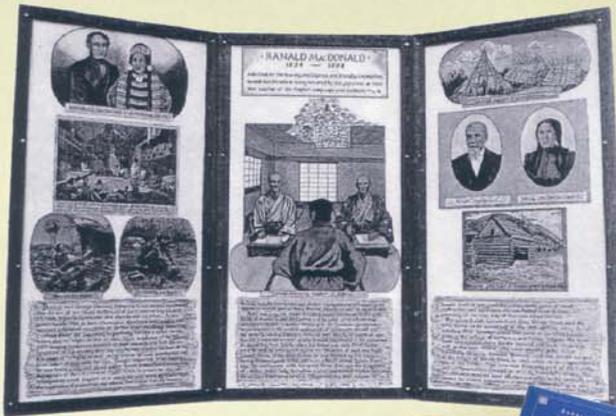
JIEA

城陽市国際交流協会

設立10周年記念講演会



開国を陰で支えた
～日本最初の英語教師
ラナルド・マクドナルドの生涯～
Ranald MacDonald



城陽市国際交流協会

設立10周年記念講演会

記念講演&ティータイム交流会

～日本最初の英語教師

ラナルド・マクドナルドの生涯～



講師: ジム・モックフォード氏

米国「マクドナルドの友の会」

日時: 2003年11月15日(土)

場所: 城陽市東部コミュニティー・センター

ラナルド・マクドナルドは、ペリーが1853年に浦賀へ黒船で来る以前に来日し、言葉を学ぶことによって信頼関係を育て、大砲や銃なしに日本とアメリカの「かけはし」になろうとし、日本に初めて英語を紹介した人物

▽1824年、米国・バンクーバー市近郊でスコットランド人の父とチヌーク族の母の間に生まれる。

▽10歳の時、米国に漂着した音吉たち3人の日本人のを知り、日本へ渡る夢を抱く。

▽1848年5月に米国の捕鯨船で来航、北海道利尻島に密入国した直後に、長崎に送られ、寺の一室に軟禁される。

▽オランダ通事ら日本人に英語を教え、また彼らから日本語を習い友情を育む。

▽'Soinara(サヨナラ)'亡くなる時の最後の言葉。



目次

「日本最初の英語教師ラナルド・

マクドナルドの生涯」の発行にあたって	... 2
年表: マクドナルドの生きた時代	... 3
講師ジム・モックフォード氏の紹介	... 6
講演会録	... 7
バンクーバー市議会への報告	.. 12
参考資料	.. 13



晩年のマクドナルド

この事業は(財)京都府国際センターからの助成金を受けています。

「日本最初の英語教師ラナルド・マクドナルドの生涯」の 発行にあたって

城陽市国際交流協会は2003年度に10周年というひとつの節目を迎え、この記念講演会を実施することができました。皆様のご協力・ご支援により育てていただいた協会の姿に、10年来の会員としてひとかたならぬ感慨を覚えます。そして、10周年を迎えた当協会の会長にご指名をいただいた、その名誉と責務を非常に重く感じております。

2003年11月15日に開催いたしました「協会設立10周年記念講演会」では、城陽市の姉妹都市であります米国バンクーバー市から講師をお招きし、日米開国以前である今から156年前、米国青年の勇気ある行動についてのお話を伺いました。ご参会の会員をはじめとする内外の皆様とともに、講師と草の根交流の場を持つことができ、意義深い1日となりました。

アメリカ先住民チヌーク族の血を母から引き継いだラナルド・マクドナルドは、まだ鎖国をしていた日本という国に興味を持ったそうです。単独で入国した彼の行動は、祖先に対する興味、異国の人に対する期待、計画を実行した勇気、捕らわれてもなおコミュニケーションを続けた意欲、彼を見て触れた当時の日本など、多くのことに目を向けさせてくれます。そして、彼のこうした想いは、今日の私たちにとっても大切なメッセージを含んでいる気がいたします。

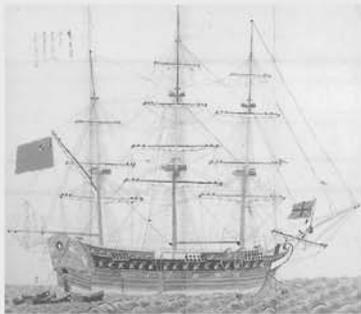
21世紀となり数年を経ましたが、国の内外でこれまでにない不安な出来事も多く起こっております。協会の理念でもあります恒久平和という人類共通の目標に向かって、願いを堆裏し、志を共有できる人の輪を少しでも大きく育てることが、私たち一人一人に与えられた大切な使命ではないかと改めて感じております。

この講演会「日本最初の英語教師ラナルド・マクドナルドの生涯」の内容を一人でも多くの方に知っていただきたく冊子に取りまとめました。ご高覧いただければ幸いです。

末筆ではございますが、この講演会の開催にあたり京都府国際センターのご協力をいただき、この場でお礼申し上げます。

2004年3月

会長 工藤香代子

西暦	和暦	将軍	幕府・諸藩のできごと	外交関係・マクドナルド・音吉らに関わるできごと
1798	寛政10	家齊		幕府、蝦夷地に180余名の調査団派遣。
1804	文化1		 <p>ロシア使節レザノフ一行</p>	ロシア使節レザノフ、漂流民津太夫らを同行して長崎来航。通商要求。翌年、幕府は「鎖国の祖法」を理由に通商拒否。
1807	文化4			フヴォストフ事件（ロシア海軍大尉フヴォストフによるエトロフ島攻撃・日本側敗走） 幕府、南部・津軽藩に増兵、秋田・庄内藩に出兵を命じる。
1808	文化5		 <p>フェートン号</p>	幕府、会津・仙台藩に蝦夷警備を命じる。 フェートン号事件（英国軍艦フェートン号、オランダ国旗を掲げて長崎侵入。長崎奉行は切腹）
1819	文政2			音吉、尾張の国知多郡小野浦村（いまの愛知県知多郡美浜町小野浦）に生まれる。
1822	文政5			英国捕鯨船、江戸湾進入し、薪水要求。
1824	文政7		英国捕鯨船、水戸領大津浜に上陸して薪水要求。水戸藩士出動。 英国捕鯨船、琉球近くの宝島に上陸。住民と衝突。	
1825	文政8			ラナルド・マクドナルド米国・バンクーバー市近郊でスコットランド人の父とチヌーク族の母の間に生まれる。
1827	文政10			異国船打払い令 ジョン万次郎が土佐の国中浜村に生まれる。
1828	文政11			シーボルト事件
1832	天保3		水戸藩主・徳川斉昭、幕府に海防を説く。	音吉達、鳥羽を出航した宝順丸に乗り込み、嵐にあって漂流。
1833	天保4		全国で天保の大飢饉始まる。	
1834	天保5			宝順丸14人の乗組員のうち音吉ら3人がアメリカ太平洋岸に漂着、インディアンに救われ、ハドソンベイ会社によりフォート・バンクーバーに連れてこられる。その後、ロンドン経由でマカオに向けて出航。

西暦	和暦	将軍	幕府・諸藩のできごと	外交関係・マクドナルド・音吉らに関わるできごと
1837	天保8	家慶	大塩平八郎の乱 徳川家慶(45歳)、12代将軍就任。(しかし、前将軍家斉は院政「大御所政治」をしいた)	米商船モリソン号事件(漂流民音吉らを同行しており、漂流民返還と通商・布教を目的として浦賀に来航したが、浦賀奉行は打ち払い令によって砲撃) 音吉を含む4人の漂流民がモリソン号で日本に向かう。
1839	天保10	家慶	幕府、蘭学者渡辺崋山・高野長英らを逮捕。(蛮社の獄) 水野忠那首席老中に就任。 水戸藩主・徳川斉昭、幕府に海防意見書を提出。	【アヘン戦争勃発】  アヘン戦争戦闘図
1840	天保11		高島秋帆、西洋砲術採用を幕府に進言。	オランダ船、アヘン戦争勃発の報を幕府に伝える。
1841	天保12		前将軍家斉(大御所)死去。 首席老中水野忠邦、天保の改革に着手。(ぜいたく禁止令、株仲間禁止令)	ジョン万次郎：足摺岬で漁業中に漂流、鳥島で143日間過ごした後米国捕鯨船に救助される。
1842	天保13		天保の改革(出版統制令など) 天保薪水給与令 幕府、忍・川越藩に相模・房総の江戸湾警備を命じる。	【清、英国と南京条約締結】
1843	天保14		天保の改革(人返しの法、上知令) 水野忠那、上知令が反発を呼び、失脚。阿部正弘、入閣。	音吉は上海のデント商会に就職、また日本人漂流民を援助するための活動を始める。
1844	弘化1		 水野 忠邦	仏軍艦、琉球に来航して通商要求。 幕府へ開国を勧告するオランダ国王の親書が届く。

西暦	和暦	将軍	幕府・諸藩のできごと	外交関係・マクドナルド・音吉らに関わるできごと
1845	弘化2		阿部正弘、首席老中に。 水野忠邦、隠居・蟄居。	米国捕鯨船マンハッタン号、浦賀来航。 幕府、オランダに対して開国勧告を謝絶。 海防掛再置。
1846	弘化3		徳川斉昭、大船解禁等の海防意見を老中阿部に提出。 幕府、島津斉彬に琉球問題を委任。 孝明天皇、海防勅諭を幕府に下す。	フランス司令官セシーユ琉球来航し、通商要求。 米国東インド艦隊司令官ビットル、巨艦2隻（コロンバス号等）で浦賀来航。通商を求めるが幕府は拒否。
1847	弘化4		幕府、会津・忍藩に安房・上総警備を命じる。 孝明天皇、異国船撃退を祈願。	
1848	嘉永1			【フランス2月革命】 マクドナルド7月、単身蝦夷・利尻島に上陸。
1849	嘉永2			マクドナルド長崎を発つ。
1850	嘉永4			ジョン万次郎、沖縄本島に上陸後鹿児島を経て長崎奉公所で70日間取調べを受ける。
1853	嘉永6			浦賀にペリー来航、ロシア使節プチャーチン長崎に来航。
1855	安政1			日露通好条約締結。
1858	安政5			日米修好通商条約。
1860	安政7			ジョン万次郎、批准使節団の主任通訳として臨威丸に乗り込む。艦長勝海舟。当時、26歳の福沢諭吉も同行。
1867	慶応3	慶喜	大政奉還、王政復古の号令。	音吉シンガポールで没す。
1894	明治27			日清戦争始まる。 マクドナルド米国ワシントン州で没す。
1898	明治31			ジョン万次郎、東京で没す。

講師ジム・モックフォード氏の紹介

- ・大学在学中の1974-75年 早稲田大学に在籍
- ・1976年 オレゴン大学アジア学科と日本語学科を卒業
- ・ワシントン大学大学院で中国語研究
- ・1981-85年 オレゴン州日米協会専務理事
貿易、ビジネス、文化・芸術の紹介また両国の交流の促進など幅広い分野に携わる。1983年には米国下院議員グループに同行して来日し、中曽根総理大臣、三木元首相、マンスフィールド駐日大使他多くの政府及びビジネス界リーダー達と交流。
- ・1991-97年 Camas High School (カマス高校)日本語教師
- ・1999年からは日系企業ワコム・テクノロジー社ソフトウェア品質管理技師

Jim Mockford



ロナルド・マクドナルドの墓標を訪ねたモックフォード氏(2003年10月)。ワシントン州北東、カナダとの国境近くにあり、周辺はRanald McDonald's Grave State Parkになっています。

受賞歴

- ・Historian of the Year 2002 : 2002年歴史家賞
(ワシントン州アバディーン・グレー・ハーバー歴史港湾局)
- ・Appreciation Award : 感謝状
(兵庫県知事 1995年)
- ・Appreciation Award : 感謝状
(静岡県引佐郡細江町・聖隷クリストファー高校 1993年)
- ・Outstanding Service Award : 顕著な活躍をされた人への賞
(在シアトル日本領事館 1985年)
- ・First Citizen of the City of Seattle : シアトル市民賞
(チャールズ・ロイヤー・シアトル市長)

その他の活動

- ・「Friend of MacDonald : 米国マクドナルド友の会」会長 (1998年から)
- ・ワシントン州アバディーン・グレー・ハーバー歴史港湾局審議委員

講演会録

演題：日本最初の英語教師ラナルド・マクドナルドの生涯

講師：「マクドナルド友の会」会長ジム・モックフォード氏

日時：2003年11月15日

場所：城陽市東部コミュニティー・センター

* モックフォード氏は日本語で講演をされました。この記録は原稿と講演の録音から作成しました。

今回 城陽市国際交流協会 設立10周年の記念講演会及びティータイム交流会にお招きいただき、誠にありがとうございます。この交流に参加できたことを、心よりうれしく思っています。

私をはじめて日本に来ましたのは、もう32年も前のことです。この時、私は16才でボーイスカウト・ジャンボリーに参加するために来日しました。富士山麓のキャンプ場で多くの人たちと草の上にキャンプを張り、キャンプファイヤー等で交流をしました。その時京都まで観光に来ましたが、残念ながら城陽には来ませんでした。国際交流協会の山口前会長も、城陽のボーイスカウトの関係者として見学に来られていたそうです。

1974年の大学生時代に1年間早稲田大学に留学しました。その時はじめてラナルドマクドナルド (Ranald MacDonald) のことを知りました。

みなさんはマクドナルドと聞くとすぐにハンバーガーのことを思い浮かべると思いますが、これからお話するラナルド マクドナルドという人は、日本で初めての英語教師として知られている人です。今から、彼の伝記をお話するなかで、ここに持っている3つの石についても話しますので、注意して聞いてください。

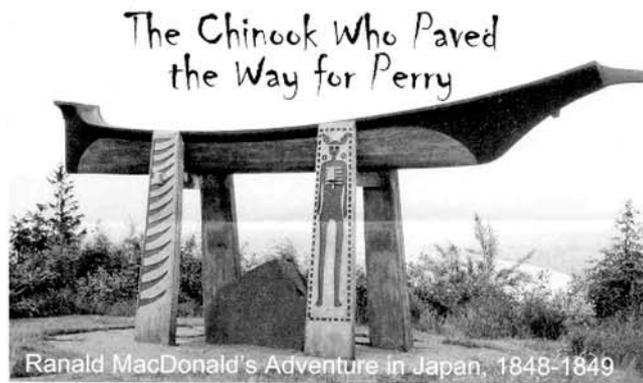
私はマクドナルドと同じオレゴン州出身です。オレゴン州は城陽市の姉妹都市バンクーバー市があるワシントン州の隣の州です。マクドナルドは1824年にオレゴン州のアストリア (Astoria) に生まれました。私は先日アストリアのマクドナルドが生まれた所に行ってきました。現在そこには記念碑が建っています。そこで石を1つ採ってきました。(裏表紙の地図参照)

写真の人は、アストリアに住んでいるブルース・バーニー (Bruce Berney、写真右) さんです。彼はアストリアの元図書館長です。マクドナルド友の会設立以前、バーニーさんや富田正勝 (エプソン・ポートランド社長、故人) さんが、記念碑建立のため力を尽くされました。

マクドナルドの父はハドソン湾会社 (Hudson's Bay Company) の社員、お母さんはインディアンのチヌック (Chinook) 族の人でした。残念ながら、お母さんはマクドナルドが生まれた1ヶ月後に亡くなりました。



祖父はチヌック族の大酋長でコムコムリー酋長(Chief Comcomly)という称号を持っていました。マクドナルドは小さい頃、インディアンの叔母に育てられました。当時彼らは、アストリアとかコロンビア川の近くにあったコムコムリー酋長の治めるチヌック族の村に住んでいました。現在のワシントン州南部です。コムコムリー酋長はたいへん有名で、探検家のルイスやクラークもアストリアで彼のことを日記に記しています。



アストリアにある伝統的なチヌック族の大酋長の墓。マクドナルドの祖父の墓と言われている。

私は先日そのチヌック村があった所に行って、コロンビア川の河原からこの石を採ってきました。この石はマクドナルドの生まれた所とチヌック族のシンボルです。現在バンクーバー市のコロンビア川沿いにマクドナルドを育てたインディアンの叔母さんの像(イルチー像。写真下)が建っています。



マクドナルドは父の仕事の関係でアストリア、バンクーバーそしてカナダと転々と住居を移動していました。マクドナルドは9才の時にアストリアから120キロほど川を遡ったバンクーバー砦(Fort Vancouver)に移り、そこにあった北西太平洋岸最初の学校に入りました。皆さんがバンクーバーに来られて、もしアストリアを見学されたいと思われたら、車で2時間30分ぐらいの所です。

丁度、その時バンクーバー砦のハドソン湾会社に、日本人の漂流者のニュースが入ってきました。ハドソン湾会社の太平洋岸総責任者であるマクロフリン(McLoughlin)博士が、漂流者を探索するためにハドソン湾会社の船を出しました。漂流者は美浜町(愛知県知多半島)出身の3人で、ワシントン州最北端のフラッター岬(Cape Flattery)に漂着し、インディアンに助けられ、奴隷として働かされていました。(裏表紙の地図参照)

探索船が3人の日本人を救助してバンクーバー砦に帰ってくる前にマクドナルドは父に伴いカナダへ引越していたので日本人の漂流者とは会えませんでした。

(当時ワシントン州周辺は英国の統治下に置かれていた。ハドソン湾会社も英国の会社。カナダとの国境線は1846年に設定された。)しかし、日本人漂流者のことを聞いたマクドナルドは日本に興味を持ち始めました。

スコットランド系の父、アーチバルト・マクドナルドはジェン・クラインと再婚しました。白人の彼女に実の子同様に愛情を注がれながら、自分が混血であることも知らずに幸せな子供時代を過ごします。レッドリバー・アカデミーを卒業後インディアンと白人、混血が共存する西部から、比較的人種偏見の強い



バンクーバー砦公園にある音吉たちの碑

東部よりの都市、セント・トーマスで銀行に勤めていました。黒髪とインディアンの面影を残す独特の風貌から、周りの白人から奇異のまなざしを向けられ孤独な日々の中、ニューヨークに出て捕鯨船に乗り、世界放浪の旅に出たのです。大西洋からインド、アフリカなどを放浪し、太平洋を往来していました。

1848年にマクドナルドは、捕鯨船の船長キャプテン・エドワードに頼んでプリマス号(Plymouth)に乗せてもらい、太平洋を渡り、北海道沿岸から初めて日本の海岸を見ました。彼は小さなボートに乗り、船の仲間達に別れを告げ、鎖国の日本に単身漂流者を装って入国しました。はじめに彼は焼尻島に上陸しました。トドがいるばかりの無人島（実際には人が住

んでいた）だと思い、2日間ロビンソン・クルーソーのように過ごした後、利尻島へ移動しました。そこでアイヌ人と仲良くなり、衣類や食事の世話も受け、客人としてもてなしてもらったので、マクドナルドは心から利尻島のアイヌの人たちに好感を持ちました。利尻運上屋の番人タンガロ（多次郎）とは言葉を教え合いました。彼が最初に覚えた言葉はアイヌ語でした。利尻島での自由な生活はたったの10日程でした。奉行所からやってきた侍に捕えられ、利尻島で1ヶ月、稚内に2週間抑留された後、道南の松前を経て、長崎へと送られました。

1998年に米国のマクドナルド友の会が、利尻島から長崎までマクドナルドの足跡を旅しました。シアトル(Seattle)在住の中野昭さんが通訳として、その他サンフランシスコ(San Francisco)在住の作家フレッド・ショット(Fred Schodt)さんたち5人が参加しました。利尻町立博物館の学芸員西谷榮治さんが、ガイドを務めました。一行は利尻島の石を持ち帰り、ワシントン州トロダにあるマクドナルドの墓の上に置いたそうです。

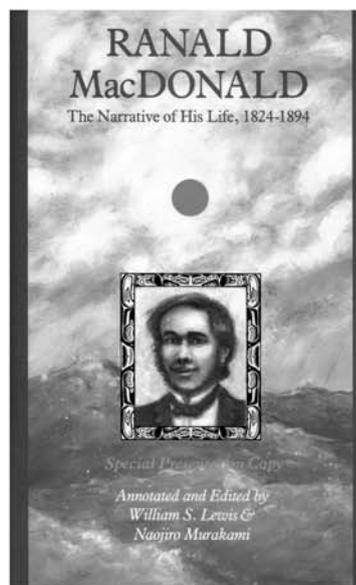
長崎の出島に護送されたマクドナルドは、そこで7ヶ月座敷牢での監禁生活を送ることになります。そしてこの間、幕府のオランダ語通訳者14人に英語を教えたことから、日本で最初の英語教師として知られることになるのです。

(編集注) 1849年、マクドナルドは長崎に入港したアメリカ軍艦ブレブル号に乗って日本を去りますが、艦上で述べた日本に関する供述は合衆国上院文書集に掲載され、それを読んだペリー提督が「日本を開国させるためには武力によるのが効果的である」と判断し、マクドナルド帰国5年後の黒船来航へとつながっていくのです。その時に主席通詞(通訳者)として開国を迫るペリー提督と交渉をしたのが教え子の1人、森山栄之助でした。英語を母国語とする人が日本人に教えたのは初めてだったので、日本で最初の英語教師といわれ、マクドナルドの優秀な生徒であった森山は、ペリー提督が来航し、ハリスが駐在する間の日米交渉で、その高い語学力と見識を評価され、サミュエル・ウェルズ・ウィリアムズは「ペリー日本遠征随記」の中で、森山がはじめに、「マクドナルドは元気か、彼について何か知っているか?」と尋ねてきた旨を記述している。このように幕末以降の日本の歴史にも深く関与しました。

私はかつて、日本で英語を教えた経験があり、またアメリカの高等学校で日本語を教えたこともあるので、同じ教育者としてマクドナルドが日本で単語帳を作ったことに、とても興味をもちました。

この本(写真右、詳しくはP13参照)の中にマクドナルドの単語帳についての記述があります。そのなかには、鎖国時代の日本ならではの言葉がたくさんありました。少し例を上げると：

マクドナルドのローマ字	日本語
Mokash	昔
Ohash	お箸
Quotosh	今年
Gee, Geesan	お爺さん
Baabaa	お婆さん
Fene Tajo	船大将
Shepuk, Harra Kari	切腹、腹きり



Ranald MacDonald The Narrative of His Life, 1824-1894

長崎でのマクドナルドは、英語を教えると同時に、自身は日本語を習い、単語を書きとめ、日本の文化も学びました。日記にも日本でのことを詳しく記載しました。現在、長崎にはマクドナルドに関する記念碑が建立されています。今年、ショットさんはマクドナルドに関する本（P13参照）を出版し、記念碑のイラストを本のカバーにしました。いつの日か日本語訳が出版されることでしょうか。

ショットさんはこの本を書くにあたり、富田正勝さんに感謝の気持ちを述べています。富田さんは米国マクドナルド友の会の創立者でした。彼は47才の若さで亡くなりましたが、生前、一生懸命にマクドナルド友の会、会長として色々な活動を計画し、実行しました。1994年、富田さんはワシントン州トロダのマクドナルドの墓を訪問しました。そこは現在ワシントン州立公園として整備されています。



ドロダにあるマクドナルドの記念碑。イラストの右手の人はマクドナルドの姪ジェンニー・リンチです。1894年マクドナルドが亡くなる時にジェンニーにマクドナルドは「さようなら」と日本語で言って亡くなりました。ジェンニーもマクドナルドの近くに埋葬されました。

私は今年10月マクドナルドの墓に行ってこの石を持って帰

りました。お墓からは川と山の眺めがよく、とても良い所です。ケトル(Kettle)川はきれいですし、その近くにマクドナルドが晩年過ごした、丸太小屋があります。マクドナルドのお墓の近くに、化石が露出し採取できる所があり、化石センターからばらの石(Stone Rose)と言う五千万年前の化石を持ってきました。バラなど植物の化石が多く採取されます。ここに置いていきますので、城陽市で展示できるところに寄付してください。

マクドナルドは晩年、化石等がある川の近くに住んで、インディアンとも交流しながら、馬に乗ったり、狩りをしたり、丸太小屋に住んで18世紀のような生活をしてました。

この石はマクドナルドの生前最後の活動のシンボルです。晩年彼は日本での体験を本にし、アメリカの人たちに伝えたいと思いました。

アメリカに帰国した後、彼は「日本回想記」を書きましたがいろいろな事情から出版できませんでした。1894年に亡くなった29年後の1923年に、ウィリアム・ルイス(William Lewis) と村上直次郎は「マクドナルド『日本回想記』」を1,000部だけ出版しました。1979年、立教大学名誉教授の富田寅男氏はその本を訳訂しました。また、ポートランドでも復刻版を出版するために、エプソン・ポートランド(Epson Portland Inc.)社長の富田正勝(故人)氏が、オレゴン歴史協会に多額の寄付をし、そのため再版されました。マクドナルド友の会は、その本を学校や図書館に寄付しています。今回、城陽市にも1冊寄贈します。

歴史は本からだけで学ぶものではありません。バンクーバー市では毎年4月の最後の週末に歴史的なところを歩き、発見するディスカバリー・ウォーク・フェスティバル(Discovery Walk Festival)を開催しています。城陽からも毎年何人かの方が参加してくれています。

そこにマクドナルドに関係のあるコースも計画され、マクドナルドが通った学校跡(バンクーバー市内にあり、他に当時の生活やインディアンから集めた毛皮の倉庫等が見学できる)イルチ像(マクドナルドの叔母の像でコロンビア川沿いにあり、周辺にベンチ等もあるので坐ってゆっくりと、すばらしい川の風景と雄大なフード山を眺めることができます。裏表紙中央のイラスト)など、マクドナルドの歴史を歩きながら体験できます。



講演会でのジム・ムックフォード氏

言葉が通じなくても身振り手振りで相手を懸命に理解しようとし、親切に思いやる日本人の態度は、マクドナルドの胸に深く刻み込まれました。もし皆様がディスカバリー・ウォーク・フェスティバルの期間以外にバンクーバーにお越しになり、マクドナルドの歴史を知りたいと思われたら、私もしくは友の会にご連絡ください。ディ

スカバリー・ウォーク・フェスティバルのコースやこれらの石の場所にご案内します。

彼こそ国際交流の原点、草の根交流を实践した人ではないかと思えます。宗教を広めるためでもなく、何か商売をするためでもなく、ましてやその国を占領するためでもなく、ただ人と知り合い、交流する事が、お互いを理解し合う最大の目的だと信じ行動しました。

今年(2003年)はペリーが日本へ来て150年の記念の年です。しかしアメリカの人たちは「日本人に最初に英語を教えたマクドナルド」のことはあまり知りませんし、学校でも教えません。それは当時ワシントン州もオレゴン州も英国領だったからで、アメリカの歴史として教えるににくいのでしょう。私も大学生のとき、学校以外で彼の話しを聞いて、興味を持ち、いろいろと調べるようになりました。今私たちの会では、アメリカの青少年にマクドナルドの歴史を知ってもらうための活動をしています。今回、城陽市で講演をさせていただくにあたり、初めて城陽市に来て、いろんなどころへ案内していただきました。バンクーバー市へ帰ったら、英語で城陽市を紹介したいと思います。

マクドナルドの最後の言葉は日本語でした。彼は「さようなら」と言ってこの世を去りました。私もここで「さようなら」。もう1つ、私の本当の気持ちを表す言葉「どうも有難うございました」。



ジム・モックフォード氏、バンクーバー市議会への報告

2004年1月5日

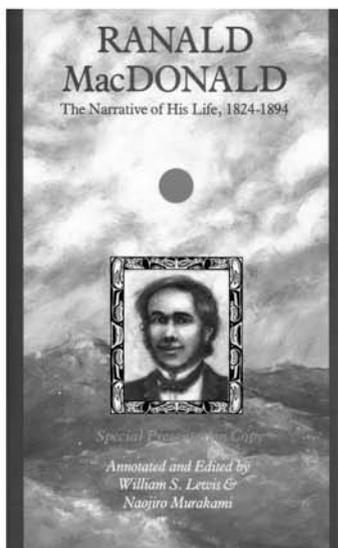
私、ジム・モックフォードは、ワシントン州バンクーバー市の姉妹都市である日本国城陽市の城陽市国際交流協会に、設立10周年記念講演会の講師として招待されました。出発に先立ち私は、ポラード市長から2004年ディスカバリー・ウォークに係る親書を橋本城陽市長に手渡すべく託されました。

私は日本の大学で学んだ経験があり、日本語を話します。現在バンクーバー市のワコム・テクノロジー社に勤務しています。息子クリストファーは大学の交換留学生として日本に滞在中で、2003年11月に城陽を訪ねました。私は Vancouver USA Volkssportersのメンバーであり、訪問中JIEAの会員達と城陽や奈良を散策しました。

私はいくつかの歴史関係の団体の会員で、アメリカの冒険家ラナルド・マクドナルドを研究する「マクドナルド友の会」の会長でもあります。日本で講演した内容は「ラナルド・マクドナルド：日本最初の英語教師」です。マクドナルドは1824年オレゴン州アストリアに生まれ、バンクーバー砦の学校で学び、1848年に日本に渡り、最初の英語教師となりました。「マクドナルド友の会」は2004年2月5日にクラーク・カントリー・歴史博物館で、「Native American and the Land of the Shogun: Ranald MacDonal and the Opening of Japan」の著者フレデリック・ショット氏の講演会を開催します。私の講演では、ショット氏が発行した新しいマクドナルド伝記の内容を多数紹介しました。城陽市東部コミュニティー・センターで開かれた講演会とティー・タイム・パーティーには150人あまりの参加者が集まり、洛南タイムス、城南新報、中日新聞が交流プログラムと橋本市長との面会を報じました。

CVTV Vancouver, Washington (地元のケーブル・テレビ)は2004年1月、2度にわたりジム・モックフォード氏が、2003年11月15日に城陽市国際交流協会設立10周年記念講演の講師を務め、その訪問についてバンクーバー市議会に報告した映像を報道しました。訪問に際しモックフォード氏は、城陽市民とともに同市内および奈良を散策しました。また同氏は「Native American and the Land of the Shogun: Ranald MacDonal and the Opening of Japan」の著者Frederik Schodt氏の講演が2005年2月5日に開かれると話しました。





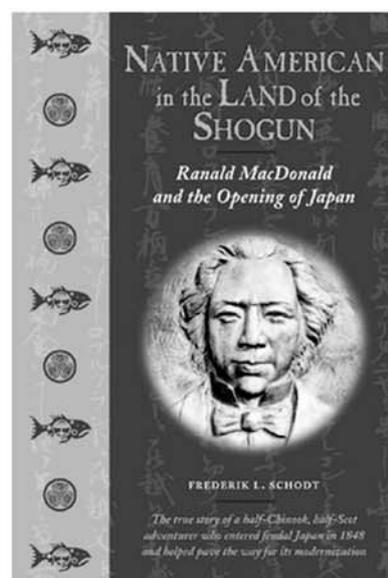
ラナルド・マクドナルドにががわる図書などの参考資料

- ① マクドナルド「日本回想記」ウイリアム・ルイス著、村上直次郎編、富田虎男訳訂 刀水書房 1979
- ② 海の祭礼 吉村昭著 文芸春秋 1986、歴史小説、絶版
- ③ 英学の先 鈴木重吉 訳 雄松堂出版1989
- ④ Ranald MacDonald The Narrative of His Life, 1824-1894, William S. Lewis & Jean M. Cole, Oregon Historical Society(オレゴン歴史協会出版)①の原本、復刻され入手可能。

④ Ranald MacDonald The Narrative of His Life

- ⑤ Native American in the Land of Shogun Ranald MacDonald and Opening of Japan, Frederik Schodt, Stone Bridge Press, 2003

250年間の鎖国を行っていた日本の近代化とラナルド・マクドナルドの物語は深いかわりがあります。1848年にスコットランド人とチヌック・インディアンの混血児であるマクドナルドは北海道近くの島に上陸。当時の日本の法により直ちに逮捕され、長崎で7ヶ月間監禁されたものの、知性と教養の高かったマクドナルドは日本人に魅せられ、また彼らの最初の英語教師となりました。日本・北米での調査に基づきマクドナルドの足取りとアメリカでの彼の業績の認知の難しさが詳細に記録されています。著者はサンフランシスコ在住で日本語が堪能なフレデリック・ショット氏。



⑤ Native American in the Land of Shogun Ranald MacDonald



⑦ This Blessed Wilderness

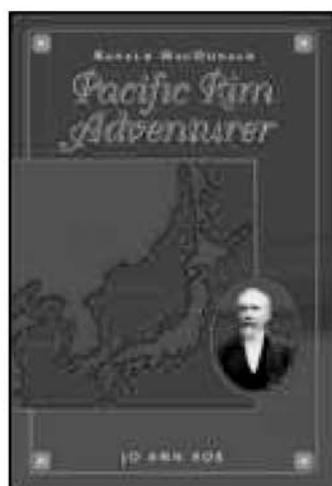
- ⑥ EXILE In The WILDERNESS The Life of Chief Factor Archibald McDonald, 1790-1853
- ⑦ This Blessed Wilderness Archibald McDonald's Letters from the Columbia, 1822-24 University of Washington Press 03/01/2001
- ⑧ Robert Brown and the Vancouver Island Exploring Expedition, John Hayman
1863年に植物採集のためバンクーバー島に上陸した若いスコットランド人の記録です。100年以上前の同島の記録として、またその後の発展を提言した貴重な記録です。インディアンの民話や故事も紹介されています。ラナルド・マクドナルドはこの探検に参加していたため、何度も名前がでてきます。発見した小さな湖に彼の名前をつけるのを断っています。

⑨ The Fort Langley Journals, 1827-30, Edited by Morgan MacLachlan
 ヨーロッパ人のカナダ・ブリティッシュコロンビア州への入植とラングレー砦の詳細な記録です。天候、交易、来訪者、現地の社会また砦の人々の生活が記されています。



⑨ The Fort Langley Journals

⑩ Ranald MacDonald (Pacific Rim Adventure), Roe, Jo Ann, Washington State University, January 1997
 ラナルド・マクドナルドはハドソンズ湾会社の社員とチヌック・インディアン王女とのあいだに生まれました。彼は1848年に捕鯨船から一人小船に乗り、日本に上陸。一年近くにわたる拘束期間中に日本人通訳に英語を教えました。彼の生徒の中には、ペリー提督が日本に開国を迫った時、通訳を務めたものもいました。釈放後、マクドナルドはゴールドラッシュに沸くブリティッシュ・コロンビアに戻る前に、世界の各地を訪問しました。



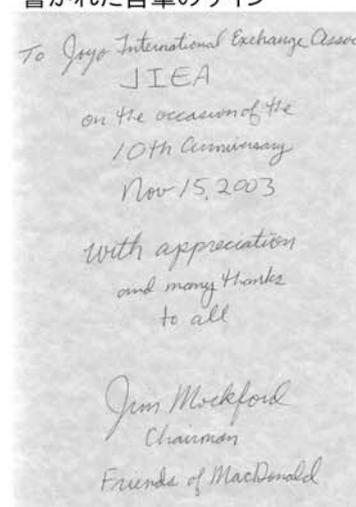
⑩ Ranald MacDonald (Pacific Rim Adventure)



上: アストリアにあるマクドナルドの生家



上: 生家の傍にある日本語の碑
 下: モックフォード氏が寄贈した本に書かれた自筆のサイン



Friends of MacDonald(米国マクドナルド友の会)
 c/o Clatsop County Historical Society
 P.O. Box 88
 Astoria, Oregon 97103 USA

日本マクドナルド友の会
 会長: 富田虎男(立教大学名誉教授)
 事務局: 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町
 利尻町立博物館

この冊子の作成にあたりジム・モックフォード氏、「日本マクドナルド友の会」会員である逢坂祐二氏、利尻町立博物館の西谷榮治氏のご協力に感謝いたします。

発行: 城陽市国際交流協会

Published by JIEA

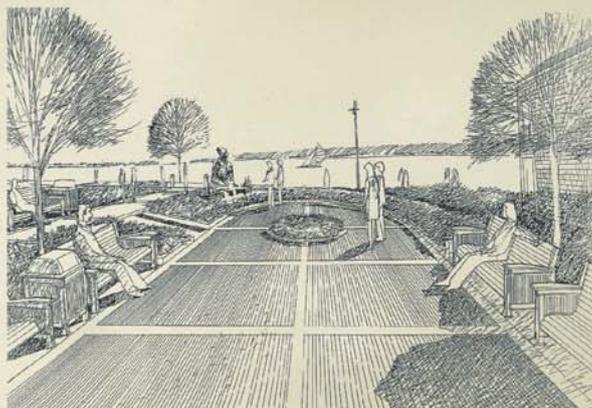
グラフィックス: 大久保 雅由

Graphics: Masayoshi Okubo

編集: 大久保 雅由、藤本 知枝

Editing: M. Okubo & Tomoe Fujimoto

発行：城陽市国際交流協会
〒610-0121城陽市寺田樋尻45-26
Tel: 0774-57-0713
Fax: 0774-55-0560
Email: jiea@balloon.ne.jp



定価 ¥300